

2. どんなことにもくじけない 高森町高森北小学校三年

M・T

水がいのときからかゞえ、もう三年ちかくもなつた。今では、あの水がいの  
おどろしかったことなど、だれも口にもださないくらいになつて来た。でも  
今、あのおどろしかったことを思うと、わたくしは、じぶんまで、大水になが  
され、いくような気がしてたまらない。

小さいころなんかは、水というものは、人間のやくだつことをするものだと思  
つて、いた。それなのに、人間をふじゆうなめに令わせた。水もいいことと悪  
いことをするということが、このときからわかつた。

今では、水がいのときだめになつた川も、きれいなおしっている。

け水ども、おとうさんやおかあさんは、もうこのよの中には、うまれな  
い。遠い天國で、わたしたちが、大きくなつたり、ばな人になることをいのつ  
ていてくれるのだらう。そして、おとうさん、おかあさんたちは、わたしたち

をなぐさめていくたさる、国じゅうのみなさんに、おれいをいっていろいろう。わたしは、大きくなっても、わたしをなぐさめたくださる、みなさんのやさしい心は、ぜったいにわすれないよう、心のどこにたいせつにとつておきたい。

おばあさんも、ときどき、

「たれか一人いきまいてくれりやあなあ。ト

とためいきをうていう。おばあさんも、三年前のかなしみか、心のどこまで、しみとおっているのだ。

おにいさんは、もうかなしいこともなれたといつてもいいくらいだ。おばあさんにいいつけられたしごとでも、かんたんそうにしている。わたしは、今、つらいのは、しごとだ。でもおばあさんは、小さいころつらいことをしているし、大きくなつてからは、つらいことにあわないといつてくれた。

わたしは、大きくなつてから、どんなことにもくじけない、えらい人になりたいと思う。

(三十八年)

〔注〕 下保郡高森町の G・T さん(当時三) S さん(三) 夫妻は、災害のさい水防作業に出かけ、すさまじい鉄砲水の勢いに流され、亡くなった。後には、長男の M 君(五) 長女 M ちゃん(七) 末っ子の H ちゃん(四) の三人兄妹と祖母の M さん(六) が残され、大黒柱を失った一家は、その翌日から生活の道を絶たれてしまった。

この一家の窮状をみかねた G さんの小学校時代のクラスメイトたちは親が  
かりとなつて遺児の将来を守つてあげようと同窓生に呼びかけた。そして、こ  
の三人の遺児たちをせめて中学校まで通学させ、立派な社会人に育てあげる  
ために、育英資金を作ることになり、クラスメイト皆が募金運動を進めている。

(ニッポン放送)